

50!
追手門学院大学
変わるもん、おうてもん。

追手門学院大学創立50周年記念事業

自分史上、
想像以上!

宮本輝の

【2016年度前期企画展】

今

2016. 4. 1 金 → 9. 30 金

授業期

[開館時間] 9:20-19:50(平日) 土曜日は17:00まで
[休館日] 日曜・祝日
※4/29(金・祝)、7/18(月・祝)、9/19(月・祝)は開館します。

学休期

8/4(土)~9/11(日)

[開館時間] 9:20-18:00(平日)
[休館日] 土曜・日曜/夏期一斉休業および蔵書点検期間
※詳しくは図書館HPでご確認いただくか、直接図書館にお問い合わせください。

オープンキャンパス

6/19(日)、7/24(日)、8/5(金)・8/6(土)・8/28(日)、9/18(日)
※オープンキャンパス開催日は15:00まで開館します。

主催: 追手門学院大学附属図書館宮本輝ミュージアム
後援: 茨木市、茨木市教育委員会、茨木商工会議所、茨木市観光協会

M
Miyamoto Teru Museum

追手門学院大学附属図書館
宮本輝ミュージアム

【2016年度 前期企画展】

宮本輝の今

小説は、通常、作家の書齋で生み出されます。書齋とは、作家の思考の場であり、執筆のための資料と向き合う場であり、創作の場でもあります。

今、この瞬間、作家宮本輝は、どこでどのように過ごしているのでしょうか。伊丹市にある自宅の書齋で、机に向かっているのでしょうか。もしそうなら、何を思い、何を書いているのでしょうか。

このようなことを想像できるのは、実は幸福なことかもしれません。なぜなら、このような想像が可能であるためには、その作家が、とにかく、小説執筆の現役であり、なおかつ、フロントランナーでなければならないからです。

1947年生まれの宮本輝は、60代後半の今、連載小説を三つも抱えています。これまでにない仕事量です。これは、体力的にもかなり「しんどい」ことと思われます。

しかし、宮本輝は、あるインタビューに答えて、「作家が一番脂が乗るのは70代だと思っています。」と述べています。これからの活躍がますます期待されます。

美味しい料理をたくさん小説の中に描く宮本輝にあやかっけ言うならば、料理としての彼の小説は、シエラがベテランになり、かなり熟したものになってきました。旨みもどんどん増しています。70代直前の宮本輝の「今」を、どうぞこの企画展でじっくり味わってみてください。

宮本輝ミュージアムプログラムディレクター

真銅正宏



展示内容

- ◆「流転の海」シリーズ 作品紹介
- ◆連載小説の初出雑誌、初出新聞
- ◆最近のインタビュー記事
- ◆直筆原稿で感じる作家の歴史
- ◆書齋写真近影

など

宮本輝氏の近年の執筆活動

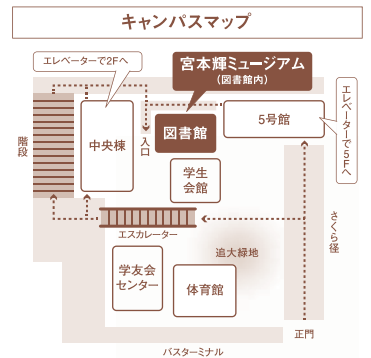
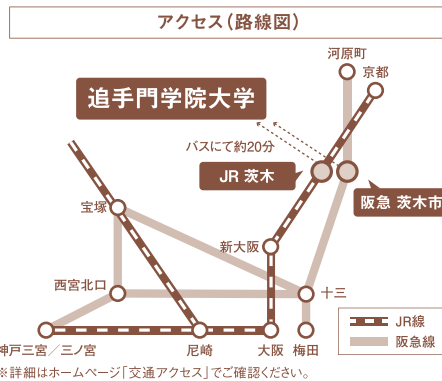
- ◆「満月の道」(流転の海 第七部)
新潮社「新潮」、2012年1月号〜2013年12月号
2014年 新潮社刊
- ◆「田園発 港行き自転車」
北日本新聞 2012年1月1日〜2014年11月2日
2015年 集英社刊

連載中

- ◆「長流の畔」(流転の海 第八部)
新潮社「新潮」、2014年6月号〜
- ◆「草花たちの静かな誓い」
学芸通信社配信 2015年3月〜
- ◆「潮音」
文藝春秋「文學界」、2015年4月号〜

宮本輝ミュージアムについて

宮本輝ミュージアムは、追手門学院大学第1期生で現在も活躍する作家・宮本輝氏とその作品を紹介する場として、2005年5月追手門学院大学附属図書館内に開設しました。宮本輝氏の直筆原稿や、愛用品などを常設展示しているほか、作品をより深く感じただけのよう、舞台背景の紹介や作品の魅力を伝える展示物などさまざまな角度から掘り下げた企画展を年2回開催しています。



宮本輝ミュージアム (追手門学院大学附属図書館 内)

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 [開館時間] 図書館開館時間に準ずる。
TEL: 072-641-9638 FAX: 072-643-9786 ※詳しくはホームページでご確認ください。
URL: (附属図書館) <http://www.oulib.otemon.ac.jp/>
(宮本輝ミュージアム) <http://www.oulib.otemon.ac.jp/teru/index.html>



URL: <http://www.otemon.ac.jp/>